

令和3年度 第2回生駒市社会教育委員会議録（要約筆記）

1 日 時 令和4年3月3日（木）午前10時～午前11時30分

2 場 所 生駒市役所 4階 大会議室

3 出席者

（委員）大谷裕美子委員（議長）・吉井香織委員（副議長）・浦林直子委員・
大辻哲男委員・岡本純子委員・上武敏一委員・近藤裕一委員・清水泰之委員・
土本みさ子委員・徳田浩平委員・中嶋宏明委員・中田弘司委員・松尾正則委員

（事務局）八重生涯学習部長・清水生涯学習課長・井川生涯学習課長補佐・
西野図書館長・錦図書館北分館長・西スポーツ振興課長・
上中生涯学習文化係員・上田生涯学習文化係員・

（欠席者）白樫学委員

（会議の公開・非公開） 公開

（傍聴者）なし

4 議事内容

○ 審議案件

・「令和4年度 生駒市社会教育基本方針及び重点目標（案）」について
事務局から説明

（質 疑・意 見）

大谷議長 事務局より新たな箇所を中心に説明があったが、ご質問、ご意見などお願いしたい。

松尾委員 「1. すべての人が楽しく、安心して成長し、活躍できる機会の創出」の具体的な内容で、生駒市が今力を入れている『コミュニティ・スクールと連携した「寿生駒連絡協議会（気らくネット）」「家庭教育支援チーム（たけのこ）」事業』に加えて「100の複合型コミュニティづくり」もふまえて推進しながら連携した形でできないか。重点目標を見ていつも思うことだが、市は縦型の組織構造で市民活動推進課の事業が入っておらず、もっと連携した形はとれないかと感じている。

事務局 社会教育の重点目標であり、生涯学習部の事業に特化して記載しているため、市民活動推進課の事業について記載がないことをご了承いただきたい。「100の複合型コミュニティづくり」とは連携できる箇所を見出して取りくみを進めていきたい。

- 松尾委員 「3. 歴史・伝統文化・芸術を通じた、より豊かなまちの実現」の箇所では、健康課が取り組んでいる「生駒健康ウォーキングマップ24」を活用して年2～3回の頻度で市内施設をまわるハイキングなど実施出来ないかと考えている。なかなか生駒ふるさとミュージアムにも足を運ぶ機会が無いので、具体的な方法としてハイキングなど良いのではないかと考えている。
- 事務局 「オトナの社会見学」事業では、次回萩の台地区の見学を予定しているが、「まちづくり」の視点で見学し、歴史を学ぶ機会にもしていきたい。生駒ふるさとミュージアムでは随時出前講座も実施しており、これからも歴史を学んでいただく機会を増やしていきたい。
- 中嶋委員 全体に関わることだが、「基本方針」について社会教育の観点から考えると、市の現状の課題を取り込んで配慮する必要があるのではないかと。市では現在20～40代の方々に対するアプローチが乏しいが、その点はどうお考えか。具体的な事業を中に取り込んでいく必要があるのではないかと。
- 事務局 重点目標に記載している内容は全て「生涯学習」という観点で、年代を問わずどの世代も対象にした事業であり、学びと交流の場を創ることを目的としている。その中で、「オトナの社会見学」事業では働き盛り世代の方々にもっと生駒のことを知っていただき、活動につながるきっかけとなるようしっかりとアプローチしていきたい。
- 中嶋委員 せっかく「オトナの社会見学」事業を実施するのならば、目標は参加だけではなく、その方々が次の中心となり、まわりを巻き込んで新しいコミュニティが生まれるといったような、具体的な最後の目標や計画、目的意識はあるのか。
- 事務局 前回図書館の見学を実施した時は、バックステージ見学や、図書館の運営に関わっていただいているボランティアの方々からの活動紹介をしていただいた。参加者アンケートからは「自分自身も活動に関わっていきたい」といった意見もあり、具体的な数値目標などはまだ設定できていないが、「オトナの社会見学」での学びと交流を通して、新しい活動のきっかけづくりにしたいと考えている。
- 大谷議長 「オトナの社会見学」は参加者個々に刺激を受ける箇所が違い、とても良い取り組みだと思うので応援していきたい。委員からのアイデアもぜひ聞いていきたい。
- 土本委員 「2・人と本、人と人をつなぎ、まちづくりの拠点となる可能性に満ちた図書館づくり」の箇所にある、障がいのある方への新しい取り組みはとても良いと感じた。ぜひ耳が聞こえない高齢者の方々も対象に入れてもらえるとありがたい。

事務局 「知的障がい者」とくくるのではなく、「読む」ことに対して障がいがあるという観点で、高齢者なども含めてとらまえている。

土本委員 「来館困難者に対する宅配サービスの実施」や「音訳サービス」「代読」もとても良い取り組みだと感じたが、どのように利用すればよいか聞かせて欲しい。また、そういった情報はどう仕入れたらよいのか。

事務局 「宅配サービス」については来館の上登録していただき、図書館司書が自宅へ面接に行き、その後ボランティアさんに頼んで自宅まで本を宅配してもらう。
録音図書や電子図書も力を入れており、市発行の郷土資料なども対象になっているため積極的に活用していただきたい。
他に「朝活読得会」も継続的に週1回のペースで行っており、広く周知していきたい活動。

情報発信については、必要な情報発信は行っているが満足のいくように届いていないのが現状である。広報いこまちや、市ホームページや Twitter での周知が中心となっている。

大谷議長 SNS の利用が苦手な世代への情報発信が課題。個別に広めていくのはかなり難しいので、市の民生委員さんが持つ地域とのつながりを活用して広めるのはどうか。

中田委員 「朝活読得会」は中地区健康まちづくり協議会と図書館が図書会館本館でモデル事業として始めたのが最初。チラシで PR する活動を今も実施している。谷田町などは東側で地域の違うイメージがあるため、駅前図書室でも始めて広がりを見せている。駅前では谷田の民生委員を中心にチラシを配る等、案内の仕事をお願いしている。このように中地区がモデルとなって、今は北コミュニティセンターでも始まり、徐々にではあるが結果が出ているので、少しずつ広めていきたい。

浦林委員 過去の社会教育委員会議での議論を反映した内容になっておりありがたい。新たに加えられた『4.「健康」「生きがい」「仲間」「まち」をつくるスポーツの発展』の箇所、「学校部活動の地域移行に伴う学校との連携支援」とは具体的にどういった連携を行う予定なのか。学校の部活動が教員にとって長時間勤務の理由の1つになっているが、連携する組織など、具体的な連携内容があれば教えてほしい。

大辻委員 スポーツ庁が主体となり令和5年度を目標に「学校部活動の地域移行」が進められているが、生駒市ではモデル事業が行われており、生駒市スポーツ協会が市から受託している。学校教育の現場から社会教育に移行するモデルと

して課題点やメリットをこれから洗い出す段階。2年計画で来年度も継続する予定だ。奈良県では生駒市と明日香村の2か所がモデル事業として実施しているが、問題点は多い。

学校における働き方改革が目的だが実際は負担が減っていない。地域移行は土日に限り、「施設利用の補助は学校が担う」とあるため教員の土日出勤は必要となる。しかし悪いことばかりではなく、地域の指導者は専門的知識もあり子どもたちはとても喜んでいる。謝礼金の支払いはスポーツ協会が担っており、事務の軽減と、専門的知識不足は解消されているが、目的の抜本的な解決にはなっていないため、まだまだ先は長いのが現状。課題を洗い出し、研究を深めることが大切な時期である。

事務局 モデル事業の課題や対応策はスポーツ庁の検討会議で議論されており、今後出される提言等を見ながら、市では各セクションと連携し子どもたちのことを第一に考えて進めていきたい。

大谷議長 学校の部活動での思い出は多く、生きる力を育てていく大切な活動。プラス面が多いので、ぜひ推進して欲しい。

中田委員 本日、この会議の後にも桜ヶ丘小の学校運営協議会の予定があるが、『コミュニティ・スクールと連携した「寿生駒連絡協議会（気らくネット）」「家庭教育支援チーム（たけのこ）」事業』の部分で、まだ実際にどんな方がいて、どのような部分で力になってもらえるのか具体的に見えていない。人材バンクなどを活用して外部の力もかりたいと考えている。例えば気らくネットにどんな人財資源があるかリスト化されるような形を取ることが出来れば今後もっと進んでいく。

大谷議長 人材情報をもっと「見える化」していければコミュニティ・スクールにも活用でき、うまく人をつないでいける仕組みになると感じる。

清水委員 社会教育委員会議での意見も取り入れられており、重点目標については良いと考える。以前より発言しているとおり、基本方針の内容が行政目線の方針であり、内容に納得がいかない。「教育」とはどのような人を育てるかだと考える。基本方針内の「機会づくり」とはあくまで手段であり、目的はどのような人間をつくるかであり、市の考える市民像を「あいさつできる人を育てる」「笑顔」など分かりやすい言葉で示さないと伝わらないのではないかと。

市のポスターを自治会の掲示板に掲示しているが、情報が多く文字が細かすぎて何を書いているのか高齢者には読むことが出来ない。今後対応を考えて欲しい。また、掲示板の位置が高く車イスの方が読むのが困難で、私の自治会では掲示板の位置を下げる対応を行ったりしている。

大谷議長 それでは審議案件「令和4年度 生駒市社会教育基本方針及び重点目標（案）」

についてはこの内容で進めて良いか。

(委員一同同意)

- 大谷議長 社会教育委員会議の次年度に向けて、ご意見や自身の活動についてなど自由に今年度の総括をお願いしたい。
- 浦林委員 本日の会議をとおしてオンラインでも出来ることがあると感じた。せっかく熱心に活動を行っている委員の皆さまが集まっているので、勉強会やそれぞれの活動をシェアしたりディスカッションする機会があると良い。
- 大辻委員 トイレの改修工事など体育施設のハード面は引き続き進めるとして、窓口業務の短縮化は出来ないかと考えている。施設予約の申請や料金の電子決済、電子申込みやバーコード決済の活用など新しい受付の方法が検討できないか。コロナ禍の中、接客時間の短縮につながると良い。すぐには難しい問題だが、取り組んでもらいたい。
- 岡本委員 生駒市子どもの本連絡会は図書館と共催でオータムフェスタを鹿ノ台で行った。講師に絵本作家の方を呼び大変好評であった。学校司書による学校図書館見学もあわせて実施。最近では公共図書館に足を運ぶ子どもが減っているため、これからも学校を巻き込んで取り組んでいきたい。以前は夏休みの時期に開催してたくさんの方が集まっていたが、秋の季節自体は良いが人が集めにくいことが課題。
- 近藤委員 地域でのボランティア活動は以前から行っていたが、委員として任期中に具体的な活動が出来ていなかった。奈良県の社会教育学校への参加など、委員でなければできないことや、人のつながりという点では、市民とのつなぎ役を委員として担っていければと考えている。
- 徳田委員 本日審議した重点目標に対しては、基本方針に対する事業が並んでおり、具体的な目標や目的が理解できていないのが正直なところ。目標と取り組み内容の宣言のような印象を受けた。行政に関わる場や目線だけではなく、具体的な議論をしていけたらと考えている。
本日の話題に出た20～40代がまさに私がマッチングしている世代。現在は教育もオンラインに移行してきており、形が変わっている。そういった話題もシェアできると良い。
- 吉井委員 委員の皆さまから活発な意見が飛び交いとても感動している。学校現場は新型コロナウイルスの影響で、子どもだけではなく大人も集うことが出来ない環境になっており、「集う」ことの重要性を実感している。令和5年を目標とした部活動の地域移行はとてもありがたく感じている。
バスでの長時間移動が制限されており、子どもたちが社会見学に行くことが

出来る場所も減っている。今後、地域の皆さんのご協力を頂いて市内社会見学マップを作成し、学校と社会で共有出来たら良いと考えている。

上武委員 議論にあったように、基本方針の結果どうなるか分かり辛い。具体的な人間像を明確に持って、それが目標になると良い。特に子どもたちの「生きる力」を強く出してほしいと願っている。社会教育は学ぶだけではなく、どう実践するかを目標にしてほしい。

清水委員 コミュニティ・スクールはまさに学校教育と社会教育の両輪で成り立っている。社会教育委員と教育委員とのざっくばらんな話合いや情報共有の場があると良いと考えている。

大谷議長 私の関わっている河内長野市では、教育委員と社会教育委員の議論の場があり、ぐっと距離が縮まった。そういった機会は有意義であると考えている。

中嶋委員 所属している生駒市芸能協会では、発表の場をオンラインで出来ないかという議論があったが、高齢の方が多く実現が難しかった。発表会は会場が「密」になり、開催が厳しい状況が続いている。長期間活動や発表が出来ず、団体の存続自体が難しいグループもあり、危機感を感じている。コロナ禍の中でも再び活動を続けていく「再生」の意識が必要。
他に現在関わっている生駒市 PTA 協議会では子どもたちの活動支援を続けているが、新型コロナウイルスの影響で大人に対する勉強会や会議の開催が難しい状況が続いている。その中で研究大会はオンライン開催とし、例年の活動事業イベントではオンラインで子どもたちの作品を募集してフォトコンテストを行った。作品は3月13日まで北コミュニティセンターISTAはばたきで展示を行っている。
3月20日のスポーツの日はアスリートと見事にコラボした素晴らしいイベント、開催をととても楽しみにしている。

中田委員 行政は縦型組織で、それぞれ一生懸命業務していることは伝わるが、課ごとのつながりが希薄でまとまっていないように感じる。行政の中で縦割になっているものの中に入ってコーディネーターとして情報をまとめる役割を担っていきたいと考えている。

松尾委員 生駒市自治連合会として、自治会単位で本日議論に出た目標をどう進めていくかが課題。現在「100の複合型コミュニティづくり」の一環でわくわく農園を実施している。活用せず草が生えている田んぼを地主と協力してきれいにする活動だが、Facebookなどを活用して発信している。やはり、皆さんに来てもらって場づくりをしていくことが大切だと考えている。
また、生駒市自治連合会で言われていることとして、地域では自治会長のなり手が少ないのが課題。みんなが参加しやすい自治会とは何かを考えながら一年間活動していきたいと考えている。

以前は、ボーイスカウト運動にも関わっていたし、現在は地域コミュニティ活動にも関わっているので、出来る範囲でがんばって取り組んでいきたい。

大谷議長

活動や事業の周知は課題の一つ。Facebook や zoom など、高齢者の方でも簡単に学べる講座を開くなど、行政主導で学ぶ機会をつくって、社会教育の1つとして取り組んでいただきたい。

その他

事務局からの事務連絡

閉 会